

安全・安心のまち
4

市民の健康・医療

市民の健康に関する意識

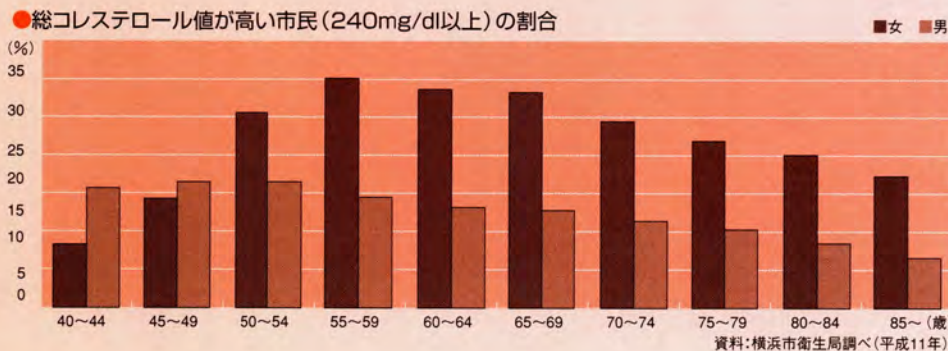
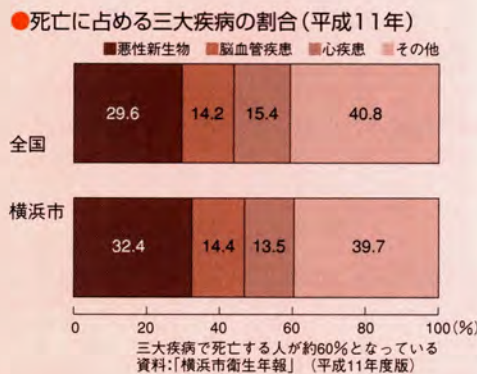
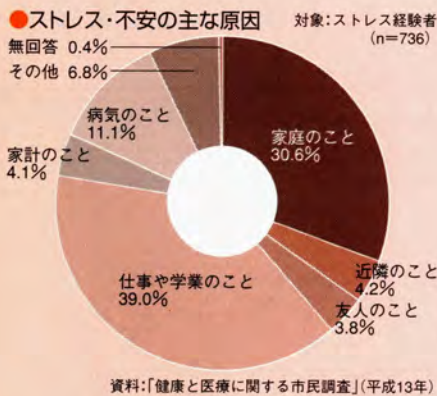
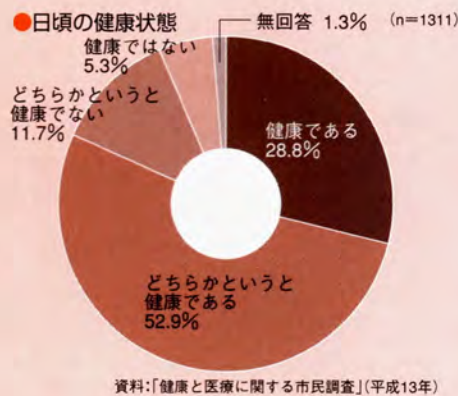
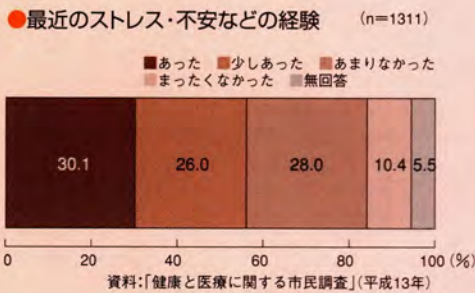
「健康と医療に関する市民調査」によれば、市民の約8割は健康と答えている。市民の健康観は、「身体が丈夫で元気がよく、調子がよいこと」「病気でないこと」「快食・快眠・快便」などさまざまであるが、「何事も前向き」「生きがい」というように、精神面についての項目も多くなっている。

最近、ストレスや不安があった市民は約56%で、その主な原因は、「仕事や学業のこと」が最も多く39%、ついで、「家庭のこと」30・6%、「病気のこと」11・1%が続く。「仕事」や「家族」も、市民生活の活力の源泉であると同時にストレスの要因ともなっている。

今後、健康のためにやりたいこととしては、「体を動かしたり、運動をする」が40・8%と最も高く、「定期的健康診断を受ける」「休養や睡眠時間を十分とる」などの項目が続いている。

通院の不満は「待ち時間」

市民生活行動調査によると、自分の病気・けがや健康診断のほか家族の通院の付き添いなども含むと、最近1年間で通院した人は約8割にのぼる。通院先は、自宅の近所の病院・医院が65%で、自宅や勤務先以外の横浜市内の病院・医院が18・3%となっている。通院先までの



所要時間は、15分未満が43・3%、15～30分までは約3割で、合わせて約7割である。医療施設は、病院・診療所も含めると市内で4200カ所に上り、都市計画区域面積当たりでは1.1kmあたり9・5カ所と大都市平均を上回る。

また、市内の病院の周囲1・5km圏内に居住している人は約9割にのぼり、病院までのアクセスがよく、利便性・選択性が高いことがわかる。通院・付き添いに関する不満の最も多いのは、「待ち時間が長すぎる」で半数の人があげており、次いで、「よい病院・医院がどこにあるのかわからない」が、23・5%となっている。

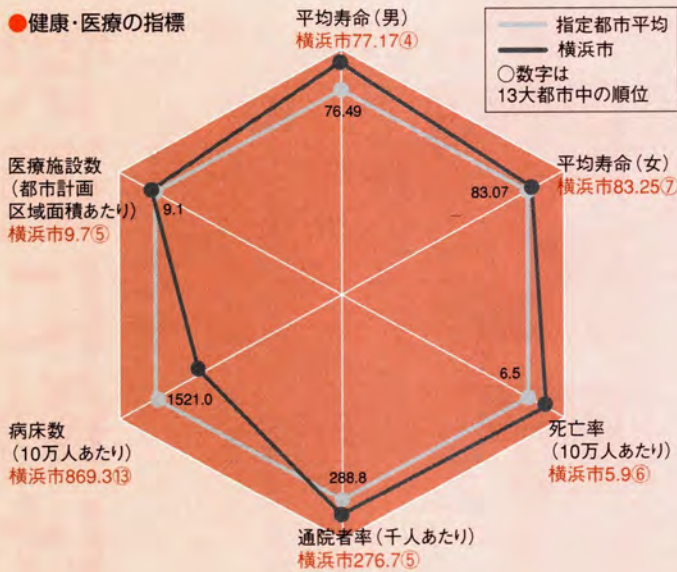
健康・医療の指標

市民の健康状況の指標を死亡率、通院率、平均寿命などからみると、通院率は大都市平均を下回り、平均寿命は男女とも大都市平均を上回っている。また、横浜市民の死亡に占める3大疾病の割合は約6割で全国とほぼ同じ水準となっている。他都市との比較はできないが、総コレステロール値が高い人が多く、特に50～70歳の女性はその割合が20%を超えている。

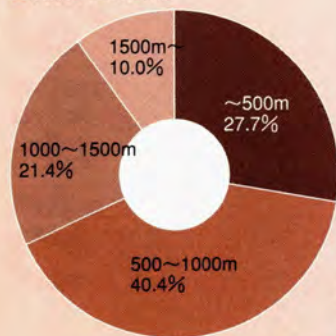
病床数は、県の医療計画で定められており、対10万人当たりの人口比で869・3と13大都市の中では低い。先に述べたように医療施設の密度は平均よりやや高い。また、地域中核病院の整備や、市立大学医学部附属病院・市民病院などの市立病院が救急医療や高度の専門医療を提供しており近隣他都市の市民も利用していることは、大都市の医療の特徴であろう。

「市民調査」では、この1年で本人や家族が通院・入院したことのある人のうち、医療機関の医療や対応について約7割の人が、「総合的にみて満足」と感じている。

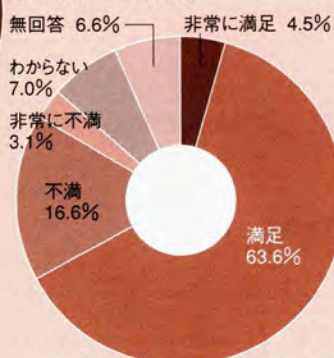
●健康・医療の指標



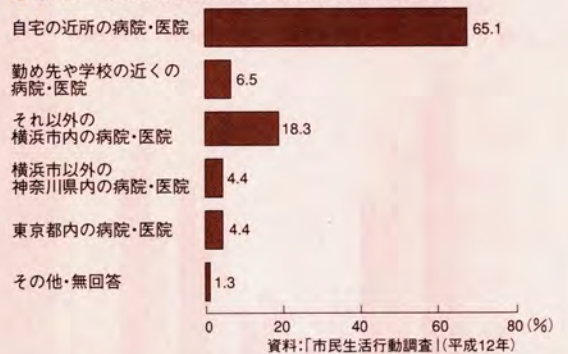
●病院までの距離



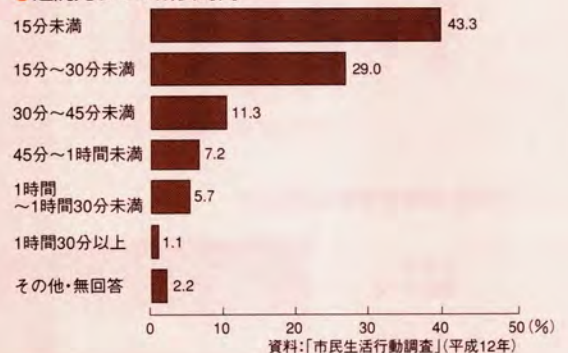
●医療機関の満足度



●最近1年間に最もよく行った病院・医院の場所



●通院先までの所要時間



●通院・付き添いに関する不満 上位5番目まで

